

HTLV-I 母児感染の追跡調査

川名 尚 (東京大学医学部分院)

HTLV-Iの母児感染の実態について、prospective studyを行うべく、1977年の妊婦血清中のATLA抗体の検索を行った。この中で陽性者から生まれた児について、現在(約10年後)HTLV-Iの感染があるか否かを検討することを目的とした。

(材料と方法)

1977年に東大病院産婦人科にて分娩した妊婦573名を対象とした。これらの妊婦から妊娠中に採血し、血清に分離後、50°C、30分加熱後、-20°Cに保存した。

抗体価の測定は、ELISA、PAを用いて、スクリーニングし、陽性例については、FA法にて確認を行った。抗体測定は、東大病院輸血部にて行った。FA法には、血清を10倍稀釈したものをを用いた。

(結果)

(a) 抗体陽性者は、全部で4名あった。これは574例中の0.69%にあたる(表)。

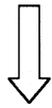
(b) 4名中2例は、輸血歴のあるものであった。

(考察)

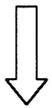
症例数は少ないが0.69%にATLA抗体陽性者がみつかった。この頻度は一般に云われている頻度よりやゝ低い。4例中2例は輸血歴があり輸血による感染の可能性が示唆されたが、残りの2例の感染経路は不明である。今後これらの児について、現在の状況を追跡調査する予定である。

ATLA 抗体陽性者

名前	年齢	輸血歴	ELISA	PA	FA
Y M	30歳	+	6.39	2.6	(+)
S N	29歳	-	5.07	2.7	(+)
H Y	35歳	+	3.24	2.5	(+)
N F	40歳	-	2.94	2.6	(+)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



HTLV-I の母児感染の実態について,prospective study を行うべく,1977 年の妊婦血清中の ATLA 抗体の検索を行った。この中で陽性者から生まれた児について,現在(約 10 年後)HTLV-I の感染があるか否かを検討することを目的とした。